

# 鶴江・香川津・新川地区にまつわるストーリー



江戸前期（天和年間）絵図に描かれた雁島、萩城下町地図（山口県文書館所蔵）部分



江戸時代中期（宝永6年）の絵図に描かれた雁島、萩城下町絵図（萩博物館所蔵）部分



江戸時代後期（天明8年）の雁島開作後の様子、萩城下町絵図（山口県文書館所蔵）部分

## 水を制するまちづくり ～雁島開作～

浜崎から新川に架かる雁島橋や雁島別荘というホテルの名称として聞くことがあっても、雁島という島はどこにあったのでしょうか。松本川の対岸の新川から無田ヶ原の中に存在しますが、今では陸続きになり、現在ではそこに島があることは全く分かりません。

江戸時代前期の天和年間（1681～1684）に描かれた萩城下町絵図には、浮島と雁島の姿がはっきり描かれています。また、鶴江には町並みが描かれています。

江戸時代中期（宝永6年（1709））の絵図を見ると、浮島は「弘法嶋」と記され、橋がかかり陸続きになり、鳥居や社殿らしき建物も描かれています。雁島の方は「雁しま」と記されていることから、島として認識されていたということでしょう。

江戸時代後期（天明8年（1788））の絵図を見ると、島の東側では陸続きとなり、西側では鋭利な形で島の地先が拡張しています。これは明和6年（1769）から始まった開作（水面を埋め立てて新たな土地を作ること）によるものです。この開作は洪水との戦いの難工事であったようで、松本川河口は砂の堆積が激しく、既にこの頃には雁島周辺はほぼ陸続きの状態になっており、これを取り込む形で地先を埋め立て、後の新川となる土地が形作られたものと思われます。こうして江戸時代の後半には雁島は開作によって陸地の中に姿を消し、増大した萩の人口を支える一大農地となり、小字に残る「雁島」「開作」にその名残をとどめるだけになりました。



現在の様子（撮影：萩阿武自然史研究会）

## 水を制するまちづくり ～姥倉運河の開削～

天保7年（1836）、萩の城下は「申歳の大水」といわれる大洪水に見舞われ、死者の数はおよそ200人にのぼりました。

つづいて、嘉永3年（1850）にも、再び萩の城下は大洪水の被害を受けました。13代藩主毛利敬親は家臣に求めた対策を自分の目で確



「さる年の大水」（1836年）の時水に浸かった所  
出典：わたしたちのふるさと萩（萩市教育委員会発行）

かめる為に現地を視察し、松本川の下流にあたる鶴江台の南側に運河を掘り、洪水の時の水を小畑の方へ流すという案に決定しました。

これが現在の姥倉運河です。洪水の被害も少なくなり、平素は船の通路となり、人や物資の運送にも利用できて、交通の便もよくなりました。

運河を掘った時の土砂は恵美須ヶ鼻造船所敷地の埋め立て、また岩石（玄武岩）は防波堤の築造に使われました。



姥倉運河の図「八江名所図画」

## 施設のご案内

### 道の駅萩しーまーと

平成13年（2001）4月、萩漁港隣接地にオープン。萩をはじめとする山口県北部の生産者が「新鮮な旬の食材」を提供し、城下町・萩が育んだ「おいしい食文化」を発信する施設。

住所：山口県萩市椿東北前小畑4160-61  
電話：0838-24-4937  
営業時間：9:30～18:00（金土日祝）9:00～18:00  
※レストランは9:30～18:00他店舗により異なる  
定休日：1月1日



### 中村酒造

明治35年（1902）創業。姥倉運河のそばに、白壁の酒蔵が建ち並ぶ。この辺りでは、しろうお漁が盛んで、「宝船」の銘には人々が大漁を祝い喜ぶ情景に想いをはせ、幸せや繁栄を願う気持ちを込めている。

住所：山口県萩市大字椿東3108-4  
電話：0838-22-0137  
営業時間：8:00～18:00  
定休日：日曜祝祭日（土曜日の休日も時々あり）  
※要予約で酒蔵見学・試飲も可



## 郷土料理

鶴江地区ではお客事やお祝い事といえば、角寿司、のっぺい汁、いとこ煮でもてなす。鶴江台で収穫した季節の野菜などをつかう。

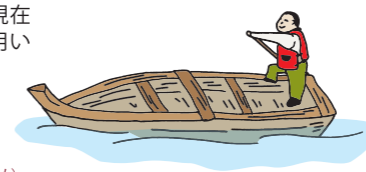


## 鶴江・香川津・新川あれこれ

### 鶴江の渡し

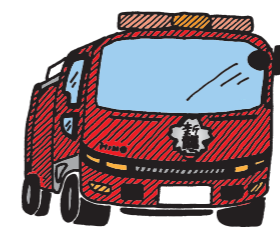
藩政時代、三角州内に入るには2本の橋しかなく、その他は渡し舟を利用していた。鶴江と浜崎の間には現在でも橋がなく今でも現役の櫓を用いた渡し舟が活躍している。市道なので乗船無料。

渡船時間：07:00～11:00  
13:00～15:00  
16:00～18:00  
運休日：毎月第1、3日曜日（船の点検のため）  
※天候不良ややむを得ない事情の時は欠航  
その際は鶴江側に赤い旗が掲げられる



### 新龍

かつて新川は木材・竹材の集積地であった。その一方で火災が増加した。そのため、新川分団ではポンプ車を所有していた。地元ではポンプ車に「新龍」と名前を付けた。現在も名前を引き継ぎ活躍している。出動範囲としては新川、鶴江・香川津である。



### 香川津神楽舞

香川津神楽舞は、戦前まで毎年香川津荒神様の前夜祭に五穀豊穡・家内安全を祈願し奉納されてきた。戦争で一時中断したが、昭和50年頃に町内有志が古老達の指導を受け現在に至っている。面と鈴は戦前の奉納から使用していたものを引き継いでいる。



編集発行

鶴江町内会・香川津町内会  
新川東区町内会・新川西区町内会・新川南区町内会  
イラスト・デザイン nating design  
萩まちじゅう博物館文化遺産活用事業実行委員会

R4.3 現在

令和3年度文化庁文化芸術振興補助金  
（地域文化財総合活用推進事業）



## 萩まちあるきマップ

### 鶴江・香川津・新川地区

## おたからマップ



鶴江・香川津・新川地区は、姥倉運河に面しています。江戸時代の終わりごろまでは、今の新川と鶴江・香川津は陸つづきでした。当時、三角州上の城下町では度重なる洪水が人々を悩ませていました。そこで、洪水時のあふれた水を小畑方面・日本海へいち早く流して町を守るため、松本川の下流にあたる鶴江台の南側に姥倉運河が掘られました。

運河沿いに住む人々は、農作業や漁業に出掛けたり、木材・竹材を運搬したりする際に運河を利用しました。今でも、運河沿いに漁船が並ぶ風景や手漕ぎの舟を用いた「鶴江の渡し」が、当時の懐かしい風景を伝えています。また、鶴江台の上には明治時代からナツミカンの栽培が行われています。さらに、四ツ手網を使った「しろうお漁」は、姥倉運河周辺でも行われ、早春の萩の風物詩となっています。

水を恐れ、水を制し、水の恵みを受けてきた人々の営みに触れてみませんか。



このマップは萩まちじゅう博物館の各エリアのおたからを紹介するマップとしてシリーズで発行しています。詳しくは萩まちじゅう博物館 おたからWEBサイトでチェック!!  
www.city.hagi.jp/site/machihaku/





# 鶴江・香川津・新川 おたからマップ

## 鶴江のこと

鶴江は、古くから漁業集落として栄えた。漁船の改良が早くから進み、荒海をこえて長期間の漁業が可能な船は、「鶴江船」と呼ばれ高い評価を得ていた。今でも、漁業集落ならではのまちなみがみどころ。



## 香川津のこと

昭和の初め頃まで、姥倉運河の南側は香川津（現在の香川津）だった。そのため、無田ヶ原や東萩駅の辺りにも農地を持つ人が多く、運河ができると渡し舟に牛を乗せて農作業に行った。また、荒神様に五穀豊穡・家内安全を祈願する神楽舞が奉納されている。



## 新川のこと

新川は、阿武川の支流・松本川の河口に位置し、上流域の豊富な竹材・木材の集積地で海外へも運搬された。昭和30年代まで竹材・木材に関わる材木店、竹すだれ製材所、鉄工所などがあつた。今でも、関連事業が続いており、各種商店も軒を連ねる。



## おすすめお散歩ルート

### 水辺と山に親しむ癒しの道

みなも 水面からスタートし、アップダウンをたのしみながら巡ってみませんか。

- ① 鶴江の渡し
- ④ 鶴江神明宮
- ⑫ 平和橋
- ⑪ 中村酒造の酒蔵
- ⑩ 姥倉運河の碑
- ⑧ 萩市護国神社
- ⑨ 長添山古墳

### 人々の願いと希望の道

先人からつなぐ祈りと願いの場所を巡ってみませんか。

- 東萩駅
- ⑬ 香川津二孝子
- ⑭ 蟹荒神
- ⑮ 猿田彦大神
- ⑫ 平和橋
- ⑥ 香川津荒神様
- ⑦ 釣りスポット

